

2018年10月12日

NHK広報局

10月会長定例記者会見要旨

Q. 受信料の値下げ等について

A. (上田会長) 先月27日に開かれた総務省の「放送を巡る諸課題に関する検討会」の場でご説明した内容をふまえ、常時同時配信に関する基本的な考え方などに関して、改めてご説明します。

まず、NHKがなぜ常時同時配信を実施したいと考えているかです。いまのNHKビジョンや経営計画にも明記している通り、インターネットの利用拡大や視聴者の情報取得のあり方の変化の中にあっても、NHKは、放送を太い幹としつつ、インターネットも活用して、信頼される「情報の社会的基盤」の役割を果たそうと考えています。そのために、放送を補完するものとして、常時同時配信を実施し、「視聴機会の拡大」を図っていきたいと考えています。

とりわけ、先の大阪、北海道での地震や相次いだ台風のような災害発生時に、視聴者のみなさまに「安全・安心」に関わる情報をきちんと得ていただくためにも、日頃から常時同時配信を通じて情報を取得していただく環境を整えることは、公共放送であるNHKの責務であると、改めて痛感しました。

常時同時配信を含むインターネット活用業務にかかる費用に関しては、上限をどうするかという視点は重要だと、私も認識しています。会計上の透明性のあり方を含め、費用の適正性に関しても、きちんとご説明していきたいと思います。また、民放との関係についても、これまで放送において培ってきた二元体制を維持しながら、放送と通信の融合時代においても連携や協力を行っていく考えに変わりはありません。

そして、受信料の水準・体系について、私の考えを申し上げます。

私としては、中期的な収支の見通しを精査した上で、いまの経営計画の還元策に加えて、受信料の値下げを実施したいと考えています。値下げのあり方や規模、その時期等については、経営委員会ときちんと議論を重ねた上で、年末までに結論を得て、公表できるよう、私が先頭に立って、執行部内の議論を急ぎます。

また、12月1日に4K・8Kの本放送が始まる衛星放送の将来像については、4Kの普及状況を見ながら、衛星波を整理・削減する方向で、放送開始1年をメドに、その時点での考え方をお示ししたいと思います。視聴者保護の観点を十分ふまえつつ、検討を進めていきます。

大きく変化する時代においても、NHKとして視聴者の期待や要望にしっかりと応えていけるよう、さまざまな課題に対し、私のもとで真剣に取り組んでいきたいと思えます。

Q. ABU会長就任とPBI総会出席について

A. (会長) 私は今月4日と5日の2日間にわたり、トルクメニスタンの首都、アシガバートで開かれたABU＝アジア太平洋放送連合の総会で、会長に選任されました。インターネットの普及を契機に、新しいメディアが次々と台頭し、放送業界はいま歴史的な変化に直面しています。こうした環境変化に適応し、新しい戦略を打ち出していくことがABUに加盟する放送局の共通の課題です。73の国と地域の270を超える会員の意見や要望を丁寧に聞き、誠実に、そして全力で職務に取り組んでいこうと思っています。

次回のABU総会は来年11月に東京で開催されます。多様なツールを駆使し、いかに視聴者の信頼を強化していくかをテーマに話し合う予定です。NHKはホスト放送局として、総会を成功に導くよう、今から準備を進めてまいります。

また、私は、今月23日から3日間の日程で、韓国の首都ソウルで開かれるPBI＝国際公共放送会議に出席します。会議では、いつで

もどこでも視聴者のニーズに応えられる「情報の社会的基盤」、「公共メディアへの進化」を目指すNHKの取り組みについて基調講演を行う予定です。会議にはイギリスBBCのトニー・ホール会長など、各国の公共放送のトップも集まると聞いています。

こうしたみなさまとの情報交換を通じ、各国の最新の取り組みなどについてもしっかりと吸収するとともに、NHKの国際的な存在感を高めていきたいと思っています。

Q. BS 4K・8K 開局1か月前特番について

A. (会長) 4K・8Kの魅力余すことなく伝える開局記念番組を、ちょうど1か月前の11月1日に、総合テレビで放送します。

大河ドラマ初のオール4K制作となる「ばなしいだてん〜東京オリムピック噺〜」の一部をメイキング映像と合わせて初公開いたします。また、BS 8Kで放送予定の宝塚歌劇団の舞台や「世界三大オーケストラの響き」など、世界一の画質と音質を堪能できる8Kならではの番組を、スタジオの出演者のみなさんに体感していただきます。

そのほか、開局当日から2日にわたりBS 4Kで放送する南極中継の見どころも紹介します。野生生物の営み、氷河や氷山の織り成す造形美など、世界初となる4K南極中継の魅力をお伝えします。さらに、4K・8K放送の基礎情報や受信方法などについても、わかりやすくお伝えします。

司会は、お笑いコンビ・チュートリアルの徳井義実さんと、久保田祐佳アナウンサーです。開局記念にふさわしい豪華なゲストもお招きする予定です。放送は、11月1日(木)午後7時30分からです。

(詳細は報道資料参照)

Q. 「どーもくん」20周年企画について

A. (会長) NHKのキャラクター「どーもくん」は、今年12月2

2日で20周年を迎えます。最初はBSのイメージキャラクターとして誕生した「どーもくん」でしたが、2004年からはNHK全体のキャラクターとなり、国内のみならず海外でも活動してきました。この20周年を記念して、「どーもくん」から視聴者のみなさまに“ありがとう”を伝える特別な企画を実施いたします。20周年スペシャル動画「どーもありがとう」は実写とコマ撮りアニメーションが入り混じったファンタジックな動画で、実写部分の「どーもくん」を、俳優の高杉真宙さんが演じます。また使用する主題歌「どーもありがとう」は、歌手の槇原敬之さんの書下ろしで、ご本人が歌います。この動画は、今月16日からNHKのホームページや放送で随時ご紹介していきます。またNHKスタジオパークでは、12月16日からおよそ2か月間にわたって、スペシャルイベントを開催いたします。「どーもくん」の20年の歩みを振り返る映像やパネル、それに「どーもくん」にちなんだゲームや工作などをお楽しみいただけます。

(詳細は報道資料参照)

Q. 平成30年度第3期末の営業業績（見込み）について

A. (会長) 契約総数の増加は50万4千件で、30年度の営業目標43万件に対して117.2%、衛星契約の増加は41万3千件で、営業目標58万件に対しては71.3%の進捗となる見込みです。引き続き、NHKの使命である受信料の公平負担を徹底するため、視聴者のみなさまに公共放送の存在意義や受信料制度を丁寧に説明し、支払率の向上に努めていきます。

(詳細は報道資料参照)

(以上)